

# みずのわ

学校だより  
【第4号】

令和4年6月28日(火)  
石巻市立石巻小学校

## 【巣立ちを目にして】

戸をさっと あけて燕(つばくろ) 出してやる 遠藤曰人

先日、自宅近くの田んぼ道を散歩していたら、巣立ち間近と思われる数羽の子ツバメを見掛けました。子ツバメたちは、大空に向かって一生懸命に羽をバタつかせ、ある程度の高さまで飛び上がると、今度は、まだ大人の長さには全然足りない羽をそれでも精一杯広げて滑空を始めます。その滑空する姿は、大人のツバメやトビなどがする悠々としたそれには程遠く、よろよろと危なっかし、私はしばらくその場に立ち止まって子ツバメの滑空練習を見続けました。

子ツバメは、滑空を終えるや、またすぐに大空に向かいます。何度も何度も繰り返し続けます。おそらく、生きるための本能による行動なのでしょうが、さっぱり上手にならないのにもかかわらず、ただひたすら同じ行動を繰り返す子ツバメに対し、“感動”というには少し大袈裟すぎますが、それに近い思いを抱きました。

「今日はだめだろうなあ。明日も難しいだろう。でも、何日かして格好よく飛べるようになるんだろうなあ。」このまま巣立ちまでの練習を観察したいと思いつつも、想像での雄姿に留まりました。



ホウセンカの育ち(観察日記) 實那奈子 作

子ツバメの姿を見続けながら、私はこんなことも思い巡らしました。

一生懸命な姿は、美しいなあ、尊いなあ。

人間はもちろん、鳥であっても動物であっても、何かにひたすら打ち込んでいる姿を見ると心を揺さぶられます。頑張る姿、表情には感動を覚えます。勇気ももらえます。一生懸命な姿がこの世の中で一番美しく思えます。

学校には、至る所に一生懸命な姿があるんだよなあ。いい職場だなあ。

「分かるようになりたい。」「できるようになりたい。」「上手に仕上げたい。」、学校には一生懸命に頑張る子供の姿が満ちあふれています。逆に、その姿が見られない、(教師が)演出できない教室・学校では子供の伸長を期待することも成長を保障することもできません。一生懸命に取り組む子供の姿がそこかしこに見られ、実際に目標を達成し喜ぶ姿を間近で見ることができること、それこそがこの職場の(しんどいことが山ほどあるけれど)最大の魅力であり、教員という仕事の喜びであると思うのです。

先の俳句は、石巻市桃生町出身で長刀の達人であり俳諧の名人であった遠藤曰人(えんどうあつじん 1758-1836)のもので。昔は、蒸し暑いこの季節に家中の扉や窓を開け放していたのでこんなことも日常茶飯事だったので、今の世の中、なかなか見られるものではありません。それでも子ツバメならあるかもしれません……。

(校長/川田知宏)